

# 梵珠ガイド会通信

2022年11月04日号

自然ふれあい  
ボランティアガイド会

## ■津軽富士見湖自然観察会 ～秋の会員自主研修～



◆水の少ないため池に入り観察

◆上空を飛ぶハクチョウ



◆ダイサギ



岩木山が紅葉で赤みを帯びてきた10月15日、鶴田町廻堰大溜池（津軽富士見湖）で、ガイド会自主研修津軽富士見湖自然観察会を開催しました。7名の会員が参加し、鶴の舞橋の修繕工事が始まったのか、例年になく水が少ないため橋脚のコンクリートが見える。お陰で、早速、溜池の中まで歩き、自然観察する。

チョウジソウの群落を確認し、実が長さ5～6cmの袋果で2個ずつ着いている。リンドウ目、キョウチクトウ科の草丈60cm前後の多年草。本種は近年、開発により急速に減少し、環境庁の絶滅危惧Ⅱ類となっている。キョウチクトウと同じく、全草、アルカロイドを含み有毒。初夏に、淡いブルーの星形の花を咲かせる。

温泉施設の南側には、シロバナサクラタデの群落が今が盛りと咲き、鶴の舞橋とよく似合う。また、オオマルバノホロシの赤い実が目につく。枝がややつる性の多年草で、液果は長さ12～15mmの楕円形で先がとがる。有毒である。普段何気なく、歩いているコースだが、 昨年の五所川原市の堺野沢溜め池の植生と違い、色々な種類の植物があることが実感できた。



◆シロバナサクラタデの群落



◆チョウジソウの群落



◆鶴の舞橋をバックに「はいチーズ！」



◆通常は水面下の湖底で観察

土曜日とあって観光客も多く、鶴の舞橋は賑わいをみせていました。上空をハクチョウが舞い、湖面にはダイサギがエサを探しているのか歩く姿がみられました。

溜め池には、水が例年になく少ないため、普通は水面下のところを歩いて自然観察できました。特に初夏には、ズミの白い花が咲き誇る島には、水が引いて陸続きとなり簡単にズミの島にたどり着けた。島全体が、ズミの小ジャングルの様相で、ズミの赤い実を食してみると、すっぱい味がする。ズミはバラ科リンゴ属の一種で、リンゴに近縁な野生種。今年、廻堰大溜め池の白いズミの花が咲く島が出現と、新聞で紹介されました。

鶴の舞橋を渡り、白衣観音堂へ。参道の周囲にはヒガンバナが植え付けられ、残念ながら花の時期は過ぎていました。昼食後は、大溜め池と新溜め池の間の土手には、黄色の花をつけたオオキンケイギクを確認。特定外来生物に指定されており、繁殖力が強く生態系に悪影響を及ぼすとして、栽培・運搬・販売・譲渡・野外に放つこと等禁止されています。

当日は穏やかで天気も良く、充実した一日を過ごし、参加者全員、満足したようです。



◆「ズミ」の島に渡り味見



◆オオマルバノホロシ(ナス科)

## ■ ガイド会活動日誌

月 日	活 動 内 容	担当ガイド名
10月15日	ガイド会自主研修「津軽富士見湖周辺自然観察会」	会員7名参加
10月23日	センター主催「紅葉トレッキング」	芳賀・須々田